

第17号

市小公連だより



筑紫野市小地区公民館連絡協議会

■発行元 筑紫野市小公連事務局 ■☎818-0057 福岡県筑紫野市二日市南 1-9-3
 ■発行責任者 会長 三宅 俊明 生涯学習センター内 ☎092-918-3535

【役員のことば】



小公連会計
美しが丘北館長
鍋嶋 明

昨年、一年間、筑紫野市小地区公民館連絡協議会(市小公連)とコミュニティ運営協議会との連携(一体化)について協議してまいりましたが、いよいよ来年度からコミュニティ運営協議会との連携(一体化)が始まります。各地区でも連携(一体化)に向けて各コミュニティと話し合いを行い、順調に進行されているようです。来年の四月からは速やかに自治公民館活動が発展されると期待しています。

各公民館では少子高齢化対策で、ご苦労されていると存じますが、「ひとづくり・まちづくり・公民館とコミュニティの連携」を合言葉に各コミュニティと密接に連携しながら公民館活動に邁進していく所存でございます。



福岡県公民館大会

8月10日



イズカコスモスコモン
(16名参加)

第63回大会テーマ「持続可能な地域に向けて 公民館が進む道」この時代だからこそ必要とされる地域の拠点であるために、福岡県公民館大会に約千人が参加して飯塚市イズカコスモスコモンで行われました。

第一部では、香川大学地域連携生涯学習センター准教授の山本珠美氏から『地域を元気にする公民館の仕掛け』住民参画による地域の課題解決が活性化の鍵と云うテーマで白熱した講演がありました。

キーワードは、「集う・学ぶ・結ぶ」これらの機能を持つ心の拠り所が公民館であることが印象に残りました。

第二部インタビュアー・ダイアログでは、「地域を元気にし、住民から必要とされる公民館」について三団体の活動報告がされ、活発なインタビュアーで盛会となりました。

ゴルフ場団地公民館館長 桂 仁徳

公民館主催講座

【常松公民館】

【講座概要】
「らっきょう漬け教室」
筑紫コミセンと地域の共助・協賛講座。

【参加者】24名

【成果】コミセンと地域の絆を題材に実施したが、筑紫地区内(コミセン・諸田・常松・桜台・永岡等)のたくさんの方所から参加してもらい、見知らぬ人と同じ講座で大変盛り上がった。

【課題】共助の相手方が地域なのか、地元館長・主事なのか、ターゲットが見つけられない場合があった。



【湯町公民館】

【講座概要】

「七夕まつり」五色の短冊の願い事による色分けや由来の説明と七夕飾りの説明を受けて、作り方を指導してもらった。

【参加者】60名

【感想】①短冊には願い事による色分けがあることなど初めて知って、こよりのつけ方もよくわからない

お母さん方もいたので、勉強になった。

②前日、大雨だったので開設するかどうかわ

迷ったが、当日早朝に笹竹を取りに行き、子ども達も集まったので良かった。



平成30年度第44回市小公連推進大会

大会テーマ 「地域コミュニティ強化の拠点としての公民館活動の活性化」
～ ひとづくり・まちづくり ～ 9月29日(土) さんあいホール



開会行事終了後、おおいた観光大使矢野大和氏による基調講演が「ひとづくり・まちづくり・公民館とコミュニティの連携」のテーマで行われました。

各地域公民館が、人とひととのコミュニケーションづくりが出来る一番身近な場所(ひとは人から元気をもらう)、一言の「ありがとう」の言葉によってやる気にさせる、同じ場所にもう一度呼ばれる仕事をする事が大事であること、又少子化対策として、子どもを育てる環境づくり、地域活動の中に子どもが集まるようなイベントを組むことで、子どもだけではなくその親も(若い世代)集まる、それを機に、他の行事を紹介し参加していただくようコミュニケーションづくりが必要である。笑いを誘いながらの口演で、誰でもいつかは高齢者になる、高齢者を有効活用しない手はない、自分が少しでも人の役に立っていると思う事で生きる力が芽生える。

最後に日本の財産は教育(しつけ)である、自分を犠牲に誰かのために尽くすという日本人のすばらしさ、地域でいるんな特技を持った人を活かし、自治区の活性化に、ひとは人からエネルギーをもらうものである。

次に3地区の発表では

□上古賀公民館では多くの行事がおこなわれているが、後継者づくりに苦慮している。

□山家3区からは、最古の公民館、コミセンまで5分、果たして公民館が必要なのか。

□美しが丘北公民館からは、10年後20年後今と同じ活動が出来るだろうか？

3地区発表後、コーディネーター水上敬之氏(福岡県教育事務所社会教育主事)、コメンテーター矢野大和氏によるインタビューダイアログ方式による討論が行われ

* 地域で解決することと、市(行政)で考えて行く問題に分けて解決をすること。* 後継者の育成がどこの地域も課題ではないか、郷土愛があれば、活動に参加してくれるはず* 行事参加者が少ない事は、後継者がいなくなることに繋がる、自治で出来ることとコミュニティで出来ることに分けて考えること。ホワイエでは、それぞれの公民館や、コミュニティでの活動状況がパネル展示され、住民の皆さんの生き生きと活動されている様子を伺うことが出来ました。矢野大和氏も講演の中でお話されたように、地域住民の活動の拠点は公民館ですので、多くの人が集える公民館になるよう努力してまいります。

平嶋 人美(山家6区公民館館長)

【大会宣言】

1. 人材育成、公民館の相互交流等を通じて公民館の活性化を図ります。
2. 家庭・学校・地域コミュニティ等との連携を図ります。
各地区小公連は、地域のコミュニティ活動に参画します。
3. 情報の発信と共有化を推進します。
4. 災害への対応として防災意識の向上と自主防災力を高めていきます。



平成30年度 夏祭り



塔原公民館

二日市地区



湯町公民館



紫公民館

二日市東地区



山口地区

むさしヶ丘公民館



西吉木公民館

御笠地区



下阿志岐公民館



美しが丘南公民館

筑紫南地区



山家地区公民館



諸田公民館

筑紫地区



若江公民館

公民館紹介

山家8区公民館



なまこ壁の珍しい公民館



恵比寿石神



七夕交流会

山家は江戸時代の参勤交代時に長崎街道の山家宿として栄えた地域である。8区のほぼ中央に「おえべすさま」と呼ばれる恵比寿石神が祀られています。それによりますと黒田官兵衛に仕えた武将桐山丹波守(きりやまたんばのかみ)が慶長16年(1611)に、この宿場を建設しました。その記念にこの一基の石像を刻み、国の安全と山家宿の繁栄を祈るとあります。興味のある方は是非、長崎街道山家宿の歴史探訪にお出かけください。この恵比寿石神の近傍に、山家宿らしい雰囲気のある8区公民館が平成28年(2016)7月に竣工しました。今では地域住民はもとより来訪者にも親しまれ、住民の集いや憩いの場として利用されています。

■「自治区公民館活動」

地域住民の情報交換はもとより交流の場として利用されている。

■主な年間の利用・活動実態

- ・総会(全世帯)
- ・区長交代時2年に1回全区民による「ふれあいフェスタ」
- ・河川愛護「全区民による環境整備」
- ・いきいきサロン「高齢者の見守りと元気確認」
- ・その他「サークル活動」

山家8区公民館長 古賀 清人

市小地区公民館館長・主事等人権研修会

子どもたちの笑顔のための人権研修会開催



10月17日(水)19時から、筑紫野市生涯学習センターで、「不登校の基本的理解〜子どもたちの笑顔のために私たちにできること」をテーマに、長阿彌幹生さん(教育文化研究所代表・筑紫野市在住)を講師に人権研修会を行いました。参加は101人でした。長阿彌さんは、「①教育への公的支出が先進国中最下位、②子どもの貧困の深刻化、③大人社会の利己的な考え方の蔓延で、子どもの自己肯定感が非常に低いことが不登校の背景にあり、不登校が子どもをダメにするのではなく、不登校をダメとと思っている大人が子どもをだめにする。大人自身が、①夢を持ち、②一人ひとりの違いを認め合い、③助け合い・支えあい・分かち合い、④子どもたちの自立を支援するように、生き方・考え方を直す必要がある。子どもに対して、①大人の意見を押し付け



ず、②子どもは失敗することから学ぶので先回りせず、③『ゆっくり・やさしく・何度でも』をキーワードに接していく必要がある。」と、お話されました。

柚須原公民館館長

長谷 裕之